

トイ ライブラリープロジェクト 報告書 2017

おもちゃ贈呈の日程

日 時	贈 呈 先
3月 2日 (木)	HOUSE of LOVE チャイルドケアセンター、 アーサーパッターナードック財団 ドロップインセンター
3月 3日 (金)	ホーイマカムポンチャイルドケアセンター、 バラーチャイルドケアセンター
3月15日(火)	ドイハーン幼稚園、パースー幼稚園、バーンジャドウチャイルドケアセンター ポンナムロンチャイルドケアセンター

HOUSE OF LOVE チャイルドケアセンター

バプテスト教会の牧師を中心に、HIV/AIDSに感染し、帰る家のない人を保護する目的で作られた施設であるHOUSE of LOVEに併設されたチャイルドケアセンター。

チェンマイ市内に点在している数か所のスラムを施設の車で回り、親が日雇いなどの仕事などに行っている間、無料で子どもたちを預かっています。

大半がミャンマーなどから国境を越えて移動してきた山岳民族の子どもで、国籍を持っていない親子も多くいます。

昼寝が終わった時間に施設を訪問しました。

子どもたちはおもちゃに歓声を上げ、帰宅時間を忘れて夢中になりました。



プラレールに夢中！動いている新幹線にも手が伸びます



帰宅時間になりました

アーサーパッターナードック財団 ドロップインセンター



自動車工場は男の子に人気です

チェンマイ市内のスラムに住む子ども達とストリートチルドレンのための施設。

ストリートチルドレンたちへの栄養補給のための食事の提供等を行っているほか、近くの小学校からの下校時に立ち寄るスラムの子どもたちの宿題の手伝いをして、落ちこぼれないように面倒を見ています。子どもたちがいつでも安心して立ち寄ることができる子どもたちの居場所です。

今回タイに届けたおもちゃの通関やタイ国内での配送などをすべてこの施設を運営するアーサーパッターナードック財団が協力、実施してくださいました。

訪問時は休館日で子どもはいませんでした。翌日から子どもたちはさっそくおもちゃに夢中のようにです。

ホーイマカムポン チャイルドケアセンター

チェンライ県メースワイ郡ホーイマカムポン村のチャイルドケアセンター。園児20名は全員アカ族の子どもです。

村名のホーイは小川、マカムポンは木の実を意味している通り、川の流れた山間にある村の保育園です。50世帯前後の小さな村の主産業は農業です。にんにく、枝豆、パイナップル、バナナ、竜眼などを育てていますが、自給自足は難しく、大きな農場の日雇いなどで生計を立てる他、チェンライ市やチェンマイ市等の大きな町に出稼ぎに出ている人もいます。

このチャイルドケアセンターは、仕事の間子どもを預ける必要があり村民が立ち上げたものですが、政府の支援を得ることができたために現在は地方行政局が運営しています。



給食の時間



子どもたちに大人気のボールテント



バラーチャイルドケアセンター

チェンライ県ウィアンパパオ郡バラー村のチャイルドケアセンター。
園児はアカ族とラフ族で19名。

上記のホーイマカムポン村と同じく農業を行う、100世帯ほどの村で、村民は日雇いや出稼ぎに行かなくては生計を立てることができない。

この日訪問した2か所の保育園は、1987年以来チェンライ県で山間部の子どもたちが通学するための生徒寮を運営し、教育支援を行っている「暁の家」代表の中野穂積さんのご協力を得て実施しました。

中野さんの支援されている保育園はチェンライ県内に8か所あり、中には70名ほどの園児がいるところもあります。

どの保育園もおもちゃが足りないために、中野さんはこれらの保育園におもちゃを貸し出すプロジェクトも実施されています。かなり山奥の保育園もあり、子どもたちはおもちゃを楽しみにして待っているようです。



全員そろっての記念写真の時にもおもちゃが気になります

チェンライ県ムアン郡ドイハーン地区

3月6日、今回訪問できなかったチェンライ県のドイハーン地区におもちゃが届き、15日に4か所に配布しました。チェンライは首都バンコクから北におよそ900Km。ムアン郡はチェンライ県の中心地からはおよそ17kmの位置にあります。ドイハーン地区は温泉や滝などもあり、トレッキングを目的とした観光客も訪れる地域ですが、あまり人気がある地域ではないため、観光業を生業とする人は少なく、多くは茶畑プランテーションなどで日雇い労働をして生計を立てています。

コンムアンと呼ばれる北タイ人（いわゆるタイ人）も暮らしていますが、多くは山岳民族でアカ族、ラフ族、リス族のひとびとが暮らしています。そして、ジンホーと呼ばれる中華系の民族が暮らしているのがこの地区の特徴です。

山の谷間の静かな村で茶畑が広がっていますが、この茶畑は大手企業の持ち物で、村人は安い賃金で働いており、他県へ出稼ぎに出る人も少なくありません。切り立った山間であることに加え、政府の保護地域もあるため個人の耕作地は少なく自給自足の暮らしをすることは難しいです。

この地域に暮らす子どもの家庭は貧しいことが多く、幼稚園の制服が用意できずに私服で来る子どももいます。麻薬の問題も深刻です。山に囲まれた地域でなかなか街に出ることもできないため、特に小さな子どもが新しいおもちゃを手にする機会はあまりありません。

今回の事業で子どもたちは新しく質のいいおもちゃを手にとって大喜びでした。はじけるような笑顔が印象的です。

ドイハーン幼稚園

園児総数16名（女子7名・男子9名）タイ民族



パースー幼稚園

園児総数16名（女子6名・男子10名）タイ民族、アカ族、ラフ族



バーンジャドゥー チャイルドケアセンター

園児総数22名(女子11名・男子11名)ラフ族



ポーンナムローン チャイルドケアセンター

園児総数26名 リス族、アカ族、ジンホー



おもちゃを届けて

アジアの女性と子どもネットワーク代表 マリ・クリスティヌ

今年もおもちゃ図書館財団のご協力でタイ国チェンマイ県2か所、チェンライ県6か所のおもちゃを届けることができました。心から感謝申し上げます。このプロジェクトは本当に多くの方々のご協力を頂きながら実施しています。

おもちゃをお送りくださるのはおもちゃ図書館財団、贈呈する施設との打ち合わせや、タイ国内での通関などはタイ国内で活動しているNGOの協力を受けました。

タイは現在、経済の発展が著しく、人々の暮らしも20年前のタイバーツの切り下げの頃と比べると豊かになってきました。しかし北部の山間部に住む山岳民族の人々は、日々の食べ物も満足に手に入らないような人々も多いのが現状です。個人の家におもちゃを持っているような子どもはほとんどいません。

どの施設でもおもちゃの箱を開けた瞬間、子どもたちの顔が光を浴びたように輝きました。幸せをプレゼントできたことが何より嬉しいことです。

これからも機会があればこの事業を継続したいと願っています。

